

延髄外側部梗塞による Lateropulsion を呈した症例に壁面を利用した運動療法が有効であった一症例

医療法人春風会 田上記念病院

○立石幹太 銚之原希志 田中精一 川上剛 小田博重 中村浩一郎

【はじめに】

Wallenberg 症候群は延髄外側部の梗塞によって様々な症状を呈するが、特異的な姿勢定位障害である Lateropulsion (以下 LP) が出現することが多いとの報告がある。今回、右延髄外側部梗塞により Wallenberg 症候群、LP が同側に出現した症例に壁面を利用した垂直位の再学習を図り、歩行の安定性が向上した症例を経験したのでここに報告する。

【症例紹介】

60 歳代女性。右半身のしびれ感、フラツキがあり立てないとして A 病院へ救急搬送。構音障害、眼振、右上下肢運動失調、左半身温痛覚低下などの症状が出現し、頭部 MRI で右延髄外側に脳梗塞を認めた。その後 37 病日にリハビリ継続目的で当院へ入院。発症前の ADL、IADL はすべて自立。自宅では園芸を趣味としており、本人の主訴は「右に引っ張られている感じがする」、Demand は「歩いて園芸ができるようになりたい」であった。

なお本症例報告において患者には書面にて説明を行い同意を得た。また開示すべき利益相反関係にある企業はない。

【経過】

初期評価では Stroke Impairment Assessment Set (以下 SIAS) は 69/76 点、Scale for the Assessment and Rating of Ataxia (以下 SARA) は 18.5/40 点、Burke Lateropulsion Scale (以下 BLS) は 2/17 点、Functional Balance Scale (以下 FBS) は 15/56 点、Functional Independence Measure (以下 FIM) は 84/126 点。LP の影響から座位、立位姿勢は体幹右側屈、重心は右側へ偏倚。平行棒内歩行は LP や右下肢運動失調による不安定さが著明に見られた。治療経過として、57 病日から左側方に壁面がある状態で起立練習を開始。壁面を利用することで LP を抑制し、姿勢の安定と重心移動による体性感覚の入力を増大させ垂直位の再学習を図った。68 病日には臥位や座位、立位での LP は消失したが、歩行中の LP は持続して出現しており自己による重心制御が困難であった。歩容はワイドベースで体幹右側屈位。右 Psw での右股関節内転運動、右 Msw で右股関節外転運動が認められ、歩幅は縮小していた。72 病日より右側に壁面がある環境へ変更しウェイトシフト練習、歩行練習を行い、右立脚期の動作制御、歩容改善を図った。79 病日より歩行練習中は独歩見守りまで歩行能力が向上した。

【結果】

最終評価では、SIAS は 71 点、SARA は 6.5 点、BLS は 0 点、FBS は 46 点、FIM は 116 点で改善を認めた。特に FBS は座位、立位の項目で大幅な改善を認めたが、段差踏み替えや片脚立位の項目に大きな改善はみられなかった。FIM の移動項目は 1 点から 6 点へ改善し歩行器歩行修正自立レベルとなった。また歩行時の LP が消失し、体幹のアライメントの

自己修正、側方のウェイトシフトの改善により練習中は連続歩行距離 800mを見守りにて可能となった。

【考察】

先行研究より LP は 2 週間以内に症状は改善するとされるが、本症例は約 3 か月残存した。LP は姿勢保持をする上で必要な脊髄小脳路、外側前庭脊髄路に障害をきたし、また自覚的視覚的垂直判断の偏倚が強く出現すると報告されている。本症例は入院時に静的な座位や立位において右側への体幹側屈、重心偏倚が著明に認められていた。また本症例は前庭神経核から眼球、脊髄へ投射している経路上の障害をきたしていると考えられ、眼振やめまいも出現していた。

本人の主訴である「右に引っ張られる感じがする」に対し、アプローチ場面では座位や立位練習時に本人の左側に壁面を設定し、知覚可能な触・圧覚情報を頼りに左側への荷重を促すことで垂直性の再獲得を図った。入院早期から反復して垂直位の再学習を図ったことで静的な座位、立位での LP は改善され、本人の「右側へ引っ張られる感じがする」という訴えも軽減してきた。しかし、歩行や階段昇降等より動的な重心・姿勢制御が必要な場面では LP が残存したため、壁面を本人の右側に変更して、ウェイトシフト練習や歩行練習を実施し、右肩外側が壁に触れた体性感覚を垂直性のずれとしてフィードバックさせながら姿勢制御を図った。これらの運動療法の結果、LP が抑制され歩行や階段昇降時の体幹・下肢の姿勢制御機能及び安定性が向上し、歩行修正自立に至ったと推測される。